



ありあけ

2022(令和4)年
2月1日(火)

無事是貴人(ぶじこれきにん)

校長 前嶋 正秀

先日、ある雑誌の記事を読んでいたら、タイトルにある格言が目に入りました。

この記事を書かれたのは臨済宗円覚寺派に属するとても高貴な方ようですが、読んでいてとても心を動かされました。私にはもちろん、「禅」についての造詣はありませんが、今号はこのことについて少し記したいと思います。

一般的にこの格言は「平穩無事で何も無いことが貴いのだ」と受け止められています。自分だけでなく、自分の周囲にいる人たちの無事を祈るなど、誰も無事であることを願うものです。しかし真の意味として臨済宗では、「『求める心』が止んだときが無事である」と説かれているそうです。すなわち、私たちは常に、たとえば幸せであったり、財産であったり、愛情であったり、何かを求めて生きていますが、そうではなくて、外に何かを求めなくても(今のままで)十分に足りている、と気づき、生命を与えられて今を生きることこそが「貴い」ということなのです。

これをもう少し拡大して解釈すれば、何かを求めたり、願い事を叶えたいと思ったり、あるいは不平不満の原因を外に見出したりすることに注力するのではなく、目の前の日常を、自分自身を、ありのままに受け入れて、自分がやるべきことをしっかりやる、一生懸命に生きることこそが貴いのだ、ということなのでしょう。ちなみにこの格言についていろいろと調べている過程で、戦国時代から安土桃山時代にかけての商人、茶人として知られている千利休が、「叶うはよし、叶いたがるは悪し」と言っていることを知りました。願いが叶うのはいいことだけれど、「叶ってほしい」と願うのはよくない、という意味でしょう。利休のこの言葉は、上記の臨済宗の考え方に通じるものがあるのではないのでしょうか。願いが叶うのは、日頃から自分が努力を重ねて、一生懸命に生きていくことが前提になっているということでしょう。そのように生きること、自分にとっての望ましい状態、自分が理想と考えている状態があとからついてくる、という意味なのだと思います。

このような境地に達するのは非常に難しいことだとは思いますが、自分は正直、常に何かを求めたり、こうであつたらいいな、と願ったり、そんなことを繰り返して日々を生きていますので、これらの記事を読んで深く恥じ入るとともに、これを自分への戒めとして、少しでもこの高みに近づければいいなと感じている次第です。生徒の皆さんで言えば、学力を上げたいとか、知識をたくさん身につけたいとか、主体的に行動したいとか、さまざまな「願い」があると思いますが、一生懸命に努力して今を生きること、自然と思っていることが叶う、そんな人でありたいですね。

1月のご報告

本校ホームページ「最新情報」ページをご覧ください。

【高校新クラスの日常】第34号「好き」が繋がる

【日本文化部(箏曲)】令和3年度1月の活動

【中学1年】東雲クリーン作戦

【高2新クラス】AkeruE(アケルエ)パナソニック クリエイティブミュージアムにてワークショップ!

【進路講演会】高2トラディショナルクラスの取り組み

【成人を祝う会】午前は令和元年に卒業した8期生が、午後は同2年に卒業した9期生がそれぞれ集い、
成人を祝うとともに旧交を温めました。 他

*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡等をよくご確認ください。

次回は3/1(火)発行予定です。(広報部)